

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 復興支援 - 32

学校名・団体名	熊本市小学校生活科・総合的な学習の時間研究会
コース	団体研究
活動・研究のテーマ	くまもとの教職員を元気にする「総合的な学習の時間」
〈活動・研究の意義および活動報告〉	
1 はじめに	
<p>熊本地震があって、熊本の多くの学校で行事や授業時数等の見直しが行われる中、当然、校内研修など、研究に関する取り組みも変更せざるを得ない状況が生じた。そうすると、県内の学校と連携して進めている本研究会も、そのような状況に合わせて運営していかねばならない面も出てきた。それでも昨年度は、ほぼ例年通りの運営にもどった。しかし、研修会の取り組みの若干の縮小や、そのことが影響したのか、参加数も減少傾向が見受けられた。</p> <p>そこで、熊本県の生活科・総合的な学習の時間の活性化に向け、新たな第一歩を踏み出すべく本研究会が決意したのが、二大研修会として位置付けている「夏季実技研修会」と「熊本県生活科総合的な学習の時間研究大会」の一層の発展・充実であった。そのために、一昨年度から地震復興関係も含めて多大なるご支援をいただいている日本生活科総合的学習教育学会大支部の先生方との連携をさらに深め、「対話的で主体的な学び」に向けた「思考の質の深まり」の実践研修を行いたいと考えた。その活動報告について、以下に述べていく。</p>	
2 生活科・総合的な学習の時間「夏季実技研修会」【平成30年7月23日（月）】	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"><p>○会場 熊本市長嶺小学校</p><p>○テーマ 主体的・対話的で深い学びにつながる生活科・総合的な学習の時間の進め方～「総合的な学習探究ガイドブック」の作成と実践的活用～</p><p>○内容 講師から「くまもと版総合的な学習探究ガイドブック」作成の目的や活用方法を指導していただき、「思考の質の高まり」を目指した総合的な学習の実践的な進め方の研修を行う。</p><p>○講師 日本生活科総合的学習教育学会理事 大分県教育庁義務教育課義務教育指導班 後藤竜太指導主事</p></div>	
<p>講師の先生は「総合的な学習探究ガイドブック」を作成された先生であり、何より本研究会が求めていた「思考ツールの活用や総合的な学習の時間実施のための教育環境」が、そのガイドブックに秘められていたので、「くまもと版ガイドブック作成」を中心とした実技研修を行った。およそ100人の参加があり、その数は前年度を大きく上回った。</p>	

前半は、「主体的・対話的で深い学びとは ～生活科・総合的な学習の時間～」をテーマに講話をいただいたが、その中で、ガイドブックを構成する要素について、いわゆる、子どもたちが主体的に、自ら使っていて探究を深めることができる環境要素について指導いただいた。作成の目的や実践的な進め方を学ぶことができた

後半はいよいよガイドブックの作成であった。作成にあたって、本研究会の理論にも合致して進めていくことが、「熊本版」の特色であった。ここでは特に、「学習環境の工夫」「単元構想の工夫」「対話が生じる授業展開の工夫」「思考ツールの活用」「メタ認知能力を育む振り返りの工夫」について、ガイドブックにしっかりと含まれるように進めていった。ここでは、それぞれの参加者のこれまでの教育実践を活発に出し合いつつ作業を進めていったので、相互に学ぶ面が多かったと同時に、各地域の先生方との交流・連携もより深められたので、正に、今回の復興教育助成の私たちのテーマである「くまもとの教職員を元気にする」ことに直接つながっていたと感じた。およそ40ページのガイドブックを作成することができた。

3 生活科・総合的な学習研究大会【平成30年11月21日（水）】

- 会場 山鹿市立稲田小学校
- 内容
 - ・基調提案「みんなで学び思考の質が高まる生活科・総合的な学習の時間」
 - ・公開授業 生活科、総合的な学習の時間
 - ・分科会（授業研究会）
 - ワークショップ型研究会「思考ツール」を活用した授業検討
 - 「思考の質の深まり」を振り返る授業リフレクション
 - ・全体会 研究のまとめと次年度の研究の指向

本年度の特徴は、「くまもと版総合的な学習探究ガイドブック」を子どもたち自らが使っていく、また、ガイドブック作成の構成要素を踏まえて授業を創っていったことである。大会に向け、県下各地から運営メンバーが、事前に何度も稲田小学校に集まり、授業検討会等を行ってきた。このような場面でも、「くまもとの教職員を元気にする」ことが感じられる、活気ある姿が見られた。

生活科の授業では、子どもたちの思いや考えを活かした「秋のおもちゃ作り」の授業が公開され、教師は子どもたちに活動の基になる方法や材料は提供するが、細かくは指示しなかった。そのことで、一人一人の個性が発揮でき、画一化されたおもちゃができることもなかった。また、子どもたちが互いのおもちゃを吟味し意見を交換する時間を設けてあったので、ここで作り方や材料について相互交流が行われた。

総合的な学習の授業では、地域に伝わる伝統芸能を6年生が伝承していくための取組が公開された。約150年前から伝わる稲作に関する地域の伝統について、子どもたちが地域に出て行きフィールドワークをしていった。そのフィールドワークの進め方、また、踊り継承会の方々へ取材の仕方等は、正に「ガイドブック」を主体的に使っていく姿であり、その有効活用から、子どもたちは自分と地域の関係性を作っていくという提案ができ、参観者から多くの賛同を得ることができた。

4 おわりに

夏季実技研修会で「くまもと版総合的な学習探究ガイドブック」の作成をし、その後の研究大会では実際の授業実践をもとに研修を深めるといふ、二つの研修の連続性を図ることができた。また、本研究会の活動を全国組織と連携させ充実発展させるために、本助成金を活用して研究担当者を11月に石川県金沢市で行われた「全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会全国大会石川大会」へ派遣し、先進校視察と「くまもと版総合的な学習探究ガイドブック」の紹介をすることができた。さらに、本年度の取組の成果を、来年6月に大分県佐伯市で予定されている「日本生活科・総合的学習教育学会大分大会」で実践発表する予定である。

『くまもとの教職員を元気にする「総合的な学習の時間」』、この活動テーマを「くまもと版総合的な学習探究ガイドブック」の作成を中心に、具体的に進めることができたと思う。